

進捗状況の概要（1ページ以内）

1) 学内の実施体制

AP 事業推進本部（教学担当副学長が本部長）による統括の下、本事業の進捗管理と取組の成果・課題を共有し、自己評価を行っている。また、全学教育センターの下に 2017[平成 29]年度に新設した学修管理・支援部門、およびその下の基礎リテラシー養成オフィス、キャリア支援・専門職養成支援オフィスにて、学修アドバイザー（助教、職員）と本事業の取組対象学部（社会福祉学部、子ども発達学部）の教務委員や就職キャリア開発委員が中心となり、学修成果の可視化に係る基幹的取組の推進と、4つの教育プログラム（基礎リテラシー養成プログラム、リメディアル教育プログラム、専門職養成支援プログラム、キャリアディベロップメントプログラム）の開発・実施に取り組んだ。

2) 中心となる取組

- ・教務、就職、学生生活の側面からの学修データの集約と、学修成果物を蓄積できるポートフォリオ機能をもつ「統合学生カルテ」システムを開発した。
- ・日本福祉大学版ディプロマ・サプリメントである「学修到達レポート」のパイロット版システムを開発した。
- ・ラーニング・アウトカム評価を行うため、学生が毎年度始めに立てる能力獲得のための具体的な目標と、そこに至る実践の場や方法、学年末の評価の際のレベル別の到達指標を策定した。
- ・初年次段階で身に付けておくべき力を養うため、基礎リテラシー養成プログラムおよびリメディアル教育プログラムを実施した。前者では、取組対象学部の初年次ゼミにて、学生がゲームやアクティビティを実施し、省察シートを用いて活動の振り返りを行った。後者では、「文章作成力養成プログラム」および「数的理解」の2種類の講座を実施した。
- ・学力のプルアップを図り、志望の多い進路先に対応する補習的な学習を行う専門職養成支援プログラムおよびキャリアディベロップメントプログラムとして各種講座を開講した。

3) 取組の成果

2017[平成 29]年度は学修成果の可視化のためのシステムとその運用の仕組みを整えた。学生が毎年度の学修到達目標を設定し、年度末に一年間の学修・活動を振り返って自己評価を入力し、それに対してゼミ担当教員がラーニング・アウトカム評価を実施することができるようになった（2018[平成 30]年度から運用）。これにより、学生が自ら学修における PDCA サイクルを回し、教員が学生の目標や学修到達状況に応じて適切な助言を行うことで、学修意欲を喚起することができるようになる。

4) 補助期間終了後の継続発展に向けた取組

事業継続と取組内容の更なる向上・発展を図っていくことができるよう、各学部や機関・組織を主体とする全学的な体制を敷いて事業を推進している。AP 事業推進本部等で検討した事項は、その内容に応じて、大学改革委員会（学長が委員長、全学部の学部長が参加）や全学教務委員会（全学部の教務委員が参加）に報告して、全学的な周知徹底を働きかけている。

統合学生カルテシステムの改善が必要な個所の修正は、システム維持のために経常的に措置されている「情報化投資予算」から拠出していく。本学学生の就職先へのインタビュー調査については、本学の既存の取組である企業訪問の一環で実施した。今後も経常費にて対応する。

5) 学内外への波及効果

全学部合同教授会（11月16日開催）では、学修アドバイザー（助教）が本事業の教育実践事例を紹介、本事業の事業計画責任者である教務部長が本事業の実施状況を報告し、全学への周知を図った。1月18日には全学的な FD/SD 事業として、関西国際大学学長の濱名篤教授を講師に迎え、「3つのポリシーの実質化と学修成果の評価」をテーマとする「全学 FD/SD フォーラム」を開催し、学修成果の評価に関する理解を深めた。本事業で推進する各種取組については、本学 AP サイトおよびテーマ V ポータルサイトに掲載し、学内外に向けて情報発信している。